



文 博 員
伊藤 議 員
糸魚川市活性化への
戦略について

糸魚川市活性化への
戦略について

質 問

平成26年度末には北陸新幹線が開通するが、ジオパークや新幹線の活用の取り組みに対する甘さや不満、不安を指

摘する方々もいる。

観光に関して先進地とは言えない当市は、新幹線開通後に向けた下地の強化、基礎固めを行うとともに、交流人口の拡大を図る具体的な施策も一緒に行う必要があるが、次の点について、その取り組み状況を伺う。

- ・ 現在行わなければならない基礎固めと、その取り組み
- ・ 交流人口拡大の具体的な施策と、今後の計画
- ・ 国、県との連携
- ・ JR各社、旅行代理店等との連携

市長答弁

交流人口の拡大を目指し、ジオパークを推進するため、関係団体との連携や、ガイド養成等の人材育成、解説看板の整備など、受入態勢の基礎部分をさらに強化させることが必要と考えている。今後も「おもてなし」の充実などに、引き

続き取り組んでいく。

交流人口拡大の施策については、旅行関係機関との連携が重要と考え、取り組んでいるところであるが、今後も情報発信や誘客活動の強化、受入態勢の整備を進めていく。

国に対しては、ジオパークのユネスコ正式プログラムへの承認と、ジオパーク支援強化について、関係省庁に働きかけを行っているところであり、県については、糸魚川地域振興局を窓口にも、人的協力や情報発信等の連携を図っている。

また、JR西日本及び東日本両社も情報発信や誘客には



立 一 員
田中 議 員
能生体育館に
ついて

能生体育館について

質 問

能生体育館の新築については関係者、地域住民ともに大きな関心を寄せている。建設地や機能についてさまざまな意見、要望がある中、どのよ

うにコンセンサスを得ていくのか。

教育長答弁

能生体育館改築検討協議会で取りまとめられた検討内容を能生地域審議会、懇談会等で説明を行い、その中でもご意見やご要望をいただいている

ところである。市としては体育館の機能を基本とする考えであり、要望を取りまとめながら、必要な設備、機能の検討を進めていきたい。



現在の能生体育館

猛暑と少雨による水稲及び畑作物への影響と農業所得向上策について

質 問

猛暑と少雨により県内の水田にひび割れの被害等が発生しているが、市内の状況は。

また、平成22年の農業所得は、一農業経営体あたり全国平均で17.4%上昇するなど、7年振りに増加に転じたが、市内の状況は。販売量増大やコスト削減等、所得向上の方策について伺う。

協力的であり、旅行各社とは積極的なツアー誘致活動を展開しているところである。



今年が初開催の「ピアパークバイクミーティング」(9月30日 親不知ピアパーク)

市長答弁

猛暑、少雨による市内の被害については、今のところ目立ったものは発生していない。

農業所得については、米戸別所得補償モデル事業により総額2億円弱の助成があったことから、当市の農業所得も増加したものと考えている。また、所得増大に寄与する6次産業化や農商工連携への取り組みも関係機関と連携しながら支援していきたい。

《その他質問項目》

- ・ 原子力発電と再生エネルギーについて
- ・ 並行在来線について